学校番号	３１０

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校「数学Ｂ」　（数研出版）						
副教材等	書き込み式シリーズ【標準】教科書傍用　Study-Up ノート数学Ｂ（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

①板書用ノートと問題集用ノートを用意しましょう。
②授業は「基礎項目確認→例題確認→練習問題演習→練習問題振り返り→類題演習(問題集)」の流れで行います。
③知識定着への近道は、「アウトプットの繰り返し」と考えます。例題確認から類題演習までの流れの中で、自ら考え、周りと協働できる機会を設けますので、積極的に活動しましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
数列，統計的な推測の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察する能力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関りについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第1章数列	第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 研究 複利計算 第2節 いろいろな数列 6. 和の記号Σ 7. 自然数の2乗の和 8. いろいろな数列の和	a:・数列の一般項や記号Σの意味を理解し、等差数列や等比数列の表現法、和の公式を身に付けている。 ・数列の一般項を n の式で表わし、身近な問題の解決に活用できる。 ・等差数列や等比数列、階差数列の性質に着目し、公式を導くことができる。 b:・隣接する項に着目して、数列の規則性について考察することができる。 ・初項から第 n 項までの和に着目して，一般項を考察できる。 c:・数列の一般項や初項から第n項までの和をnを用いて表し、それを身近な問題の解決に活用しようとする。	小テスト 考査	ワークシート 考査	提出物 振り返りシート
2		第3節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	a:・漸化式の意味を理解し、数列を漸化式で表すことができる。 ・漸化式を用いて具体的な項や一般項を求めることができる。 ・数学的帰納法を用いて等式や不等式、ある数の倍数であることを証明できる。 b:・初項と漸化式を用いて数列を定義することを理解している。 ・置き換えなどの工夫が必要な漸化式について考察できる。 ・自然数 n に関する命題の証明には数学的帰納法が有効であることを理解している。 c:・漸化式を通して複雑な数列の一般項を考察しようとしている。 ・数学的帰納法を用いて様々な事柄を証明しようとする。	小テスト 考査	ワークシート 考査	提出物 振り返りシート

	第2章統計的な推測	第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布,	a:・確率分布を計算式や分布図を用いて表すことができる。 ・確率変数の期待値、分散標準偏差を求めることができる。また、二項分布に従うものも求めることができる。 ・連続的な確率変数について理解し、確率密度関数から確率を求めることができる。 ・正規分布について理解し、標準正規分布に関する確率の計算ができる。 b:・確率変数の期待値，分散，標準偏差を用いて確率分布の特徴を考察することができる。 ・二項分布に従う確率変数の期待値，分散，標準偏差の公式について，確率分布の定義から導出することができる。 ・正規分布の特徴を理解し，さまざまな視点からとらえられる。 c:・確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき，確率分布について積極的に考察しようとする。 ・確率変数 aX+b と確率変数 X のそれぞれの期待値，分散と標準偏差の関係について積極的に考察しようとする。 ・連続的な確率変数である正規分布に興味をもち，正規分布について積極的に考察しようとする。	小テスト 考査	ワークシート 考査	提出物 振り返りシート

3		第 2 節 統計的な推測 6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布 8. 推定 9. 仮説検定	a:・二項分布に従う確率変数に関する確率の計算を, 正規分布に従う確率分布で近似して求めることができる。 ・母平均と母標準偏差がわかれば, 標本平均の値がどのくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。 ・仮説検定にかかわる用語を適切に活用することができる。 b:・二項分布のグラフと正規分布曲線の関係を考察することができる。 ・母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 c:・母集団や標本の特徴を理解しようとする。無作為抽出の方法について関心をもち, 調べてみようとする。 ・母平均や母比率の推定、仮説検定に関心を示す。	小テスト 考査	ワーク シート 考査	提出物 振り返り シート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度